

伊那谷スケッチ～自然と文化を巡るふるさと再発見～第48回

前島久美



写真：お隣のJさんちの猫 びび 食事担当が筆者になるとわかるとすぐに実家の旅館を訪ねてくる。20.08

大雨、日照り、台風と自然界の圧倒的なチカラに右に左にの人間界ですが、庭の栗の実が今年も落ち始めました。季節は留まる事を知らず確実に進んでいます。今週は雨が断続的に降るようなので山のキノコの発育がどのような感じになるかなとうずうずしています。雨の中、山を歩くのが好きです。何とも言えない動力に満ちている雰囲気が良いです。

実家の近くの空き家にこの夏、Jさんご夫妻が越して来ました。先月はお子さんが生まれ新生活を楽しんでいるご様子。彼らの家にびびというチャトラの子猫がいます。ここ数ヶ月は家主が所用で家を空ける事も多かったので、餌やり当番を何回かしました。抱き上げると軽く、暖かさだけが印象に残ります。その彼がだんだんと重量を増していく様は生命力のありようそのものでした。最近では筋肉量もだんだんと備わってきているようで柔らかさの中に強さも感じます。餌やり当番の時は、基本的にびびのお家に訪ねて行ってあげていました。

ある日、家主がびびを抱えて「家を空けるので餌やりをよろしく～」と挨拶にくると、まもなくして実家の旅館の庭にやって来てくつろいでいるではありませんか。夕方ご飯を自宅で食べさせましたが、どこからか鳴き声がすると思ったら旅館に入ってきてお客さんの膝の上に乗っかる始末。その日は一緒に寝ました。顔を近づけて甘えた後は、お尻をあたしの顔に近づけるといふ、動物のコミュニケーションの王道を教えてくださいました。このまま、うち猫になってしまうのかな、と思いきや翌日家主が帰ってくるとしれっと「Jさんちの猫」に戻っていました。道程で姿を見かけて呼んでもふいっと知らん顔をする徹底ぶりで寂しさを感じましたが、安心しました。感情と振る舞いの距離間の演出に学ぶべきものを感じたのでした。(20.09.08)

『思った事は、物質化できる』

茅野市でフリーのコンサルを手がける男性がそう発言していたのが印象的だった。彼は東京国立市から茅野市に移住して、今は保育園で本の読み聞かせをしながら、企業のディレクターをフリーで請け負っているという。彼はそのカタカナの職業を「企業の理念をより伝わりやすくなるための仕事」と、翻訳してくれた。この日、私は松川町の森林セラピー基地のマーケティング講座に参加していた。「松川町の森林セラピー」に来てもらいたい顧客の背景をより具体的に想像し、メニューを想起するといった内容で、3グループそれぞれ5、6人に分かれて作業した。私はプログラム開設後、ヨガの指導者として関わる要員で

声をかけられているのだが「マーケティング」という響きに興味があったので参加してみた。

私のグループには、町の保健課で働く女性がいたので自殺者が多いというリアルな松川町の現状を聞きながらストーリーが構成されていった。「コロナ自粛で家庭環境が悪化し離婚した母子。母30代は看護師で休み無く働く、子どもは小学生。家で一人で過ごす時間が多くゲーム依存症」精神的に限界が来た母子が松川町の森林セラピーを利用すると言ったモデルケースが完成した。それに対して森林セラピー基地としてはどういったプログラムを提案し、それを提供した結果、母子はどのような状態になったのかというその後も漏れなく想像する。特に想起のプロセスとして重視していたのは、危機的状況からどういう経緯を経て松川町の森林セラピーにたどり着くのかといった細かな情報源の発信地や紹介者も具体的にあげるといふところだった。「想像したものは物質化する」のだとしたら松川町の森林セラピー基地は具現化間近だ。

松川町で「森林セラピープログラム」まもなく本格始動

松川町が森林セラピープログラムの開設に向けて本格的な取り組みを始めている。先進的モデル地域は信濃大町だ。1980年代から住民主体で森林セラピーを開設した後、行政や地元企業と協力しながら現在に至る。宿泊と森林セラピーガイドを合わせた着地型の観光にも成功している。また地域の病院とも提携することによってその効能をより広く伝えていくための根拠の蓄積も怠っていない。長野県の「豊かな緑」というありふれた、しかし確実に一番の売りであろう地域資源に着目しそれを生かしたその具体的取り組みは、先進的なモデル地域としてその業界のトップになっている。ただ森を歩く、ということがどれだけ身体的、肉体的に効果があるのかという事については、私自身科学的データを提示されるまでは半信半疑だったが自身の身体感覚経験と合わせてみても納得のいく内容だった。森林セラピーに医療保険が適用されるドイツでは国内にいくつも基地があるという。信濃大町は、それと同じように長野県の各所にセラピー基地が出来ればいと語る。長野県は南北に広く、地形の特徴によってもたらされる季節感やそれによって醸される人間性も魅力の一つだ。そういう環境的なことを結びつけニーズにあったセラピー基地を提案できるということも長野県が発信する「森林セラピー」のありようとして特色になるであろう。(20.09.10)